



自然環境ねりまくらぶ

「こぶし」からみえる環境学習会

— 区の木「こぶし」に市民権を!! —

まずは、自然環境ねりまくらぶ代表の松岡さんからのごあいさつ。過去3年間に取り組んだ活動テーマについて(裏面参照)。そして、今回の学習会に招かれた井東文一さん(東京都自然環境指導員、練馬地域サークルデンドロン・リーフ代表)のご紹介がありました。

「“植物の不思議”を考えると夜眠れなくなっちゃいますよ。」

井東文一さんの、ちょっと専門的な「こぶし」の生態についてのお話。

「コブシの種に糸がついているのはなぜか知っていますか？」



持ってきた実をみんなにまわしながら話をしてくれました。コブシの真っ赤な種が殻

から垂れ下がっています。

井東さんは言います。「鳥に食べられたあとの種の発芽率はなんと95%、実から種をぶら下げて鳥がくるのを待っているのです。」

植物自身が「考える」ことはないのにどうしてだろう？と植物の不思議を思うと眠れなくなってしまうそうです。



学習会后、四季の香公園へ定点観測に向かいました→

☒の木は「こぶし」だよ?!
でも実はよく知らないな…そんなふとした疑問からテーマになった「こぶし」から見える環境学習会。◆シンボルツリーとしてもっとまちに登場させたいというアイデアに始まり、学習会やコブシの定点観測を通して、ねりまの環境についての考え方が広がっていきました。この「新しい発見」が写真展に繋がっていただけらいいなあと、次の展開が楽しみです。

まち活つうしん No.6

ねりままちづくりセンター 取材日:2008.11.08



「みんな木が大切といっているけど、本当に大切なのは何か。」

— 普段まちや、公園に落ち葉はたくさん落ちていますか？きれいに掃除されていますよね？と井東さん。

本来、落ち葉は腐って土に栄養が吸収されたり、バクテリアやミミズに食べられて腐葉土になります。この腐葉土には不思議な力があって、かぶと虫の幼虫に食べさせて作った腐葉土にはアブラムシがつきにくいそうです。なぜでしょうか。虫のおなかの中で人工肥料にはない力が働いているのではないかと井東さんは言います。まさに自然の摂理です。でも、皆さんよく使っている液肥等には、その過程がありません。木に虫がついてしまったり、病気がちになってしまうのは「環境問題」ではなく、私たちの「都合」なのですね。木が大切ということは、土も、花粉を運んでくれる生き物も、大事なのです。

木を植えるときは、ずっと先のことも考えて。

まちの「みどり」は人を精神的に安定させる力があるとわかっていても、それを街の中で活用する植え方や剪定の仕方にはまだまだなっていないようです。

木を植えるときは、その木の性質をきちんと知った上で、数年後の管理も考えて決めるべきだね！とみんな

で話し合いました。

例えば—比較的温かく、水の多いところを好むコブシの木。ネリマといっても色々な地があります。では、元気に育つには、どこが適した場所？など、話はずづきました。

私たちより長く生きる樹木を通じて、「おじいちゃんたちはこんな定点観測をしたんだよ」って何十年後にも伝えられたらいいですね。

自然環境ねりまくらぶ

松岡さんに

聞きました。



Q. なぜ「こぶし」を取り上げたのですか？

メンバーの方のふとした疑問から始まったんです。「区の花、ツツジはたくさん植えられているけれど、区の木コブシのことはよく知らないなあ」…。

まちづくりの中でもっとコブシの木をシンボリックに使っていったら、

まちの目印となっていのではないかと。そこで「こぶし」をテーマにすることにしました。

Q. 今後の活動について教えてください。

学習会を受けて、少し考え方も変わってきました。ただシンボルツリーとして植えるのではなく、雑木林のなかで春を告げる白い花などコブシの魅力や性格を活かせる植え方をねりまのまちの中で提案できたらと思います。また、コブシの定点観測の写真で、写真展をして、今回活動したことを多くの方にみていただけたらと思っています。

自然環境ねりまくらぶについて



発足 2004年9月

活動暦 3年

活動テーマ

自然環境に親しんで生態系と心豊かな共生環境を育むために、音・水辺・植物など1年にひとつの大きなテーマを設けて、そこから身近な環境に目を向けていこうと、区民に呼びかけながら活動している。

活動場所 練馬区全域

活動実績

自然環境勉強会 [6回開催] (2005年)

川と水辺プロジェクト (2005/6年)

ねりま遊遊スクール (2005/6年)

川博見学会 (2006年)

小さなアイデア募集 (2007年) など

団体連絡先

tamaniwane@mail.goo.ne.jp (松岡)

取材日記

この環境学習会におじゃましました、練馬まちづくりセンターの猪俣です。「こぶし」という特定の木から始まった環境学習会ですが、びっくりするほど視野が広がるんです。とくに講師、井東さんのお話は、コブシに興味をもったみなさんに、その魅力から実際の自然環境の課題を問う貴重なお話でした。

1本の木を植えるとき、その木にとって快適な居場所なのか、私たちも含めて木を囲むまわりの生き物たちも幸せなのか考えて植えると、誰かと誰かの植えた木の間がまた1つの空間となって素敵な環境が生まれてくるのでしょうか。この「コブシ」が魅力的に育てている場所を見つけて守っていったり、なかったらどこかで実践してみたりと1箇所から、段々いろんな木、草、生き物、人がイキイキ育つ場所へと広がっていきそう！と夢がひろがりました。



練馬まちづくりセンターは

“まちづくり活動助成事業”で、

自然環境ねりまくらぶの活動を応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、まちづくり活動を行っている団体を支援する事業です。当センターのまちづくり活動助成には3つの部門があります。

【はばたき部門】 身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動への助成です。

【たまご部門】 これから身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動に取り組むにあたり、事前の学習をおこなうこと に対する助成です。

【テーマ部門】 身近な場所で生き物を呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創りだす活動への助成です。

練馬まちづくりセンターとは…

練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実践する組織です。

発行：(財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター

練馬区豊玉北 6-12-1 (区役所 東庁舎 6F) Tel 03-3993-5451 • Fax 03-3993-8070 • Eメール machi@nerimachi.jp • ホームページ http://nerimachi.jp